

教育人事交流の例

看護学科→看護部

☆交流部署:5階西ナーステーション☆

- ①高齢患者に対する臨床における看護の実践について理解する。
- ②頭頸部癌・血液腫瘍に関する最新の治療・看護について理解する。
- ③がん放射線療法看護を実践する。
- ④その他:研究課題の開発・多職種連携への参画

☆交流部署:地域連携室☆

高度先進医療を受けた退院支援を必要としている患者が、組織内外でどのような連携を経て地域に戻るのか、また退院支援看護師や病棟看護師、外来看護師がどのような役割を担い継続看護を実践しているかを理解し、自らの看護実践能力を高め、研究や看護教育の質の向上につなげる。

☆交流部署:5階西病棟、外来化学療法センター☆

がん化学療法(特に血液疾患)の看護実践について最新の知見を得る。それにより学生への教育(講義・実習)へ活用する。

看護部→看護学科

☆交流部署:成人看護学領域、成人看護学実習Ⅰ☆

成人看護学実習Ⅰの企画、運営を包括的に体験し病院実習における学内教育と臨床教育の違いや中立的な立場で学生と交流し実習前後の学生の反応を理解する。それらに対する教員と臨床指導者のサポート体制について学び、臨床指導の場面に役立てる。

☆交流部署:基礎看護学領域☆

- ・教員業務に携わり、臨地実習における企画・準備・運営・評価の一連の過程の実際を知る。
- ・教育現場と臨床現場との間にある実習運営上の問題点の有無、その具体的内容に気付く。
- ・実習指導者としての今後の方向性を見出す。

参加者からの声

私は、教育人事交流を5階西NSで実施させて頂きました。看護師長をはじめスタッフの皆様のご協力により実りある研修となりました。臨床から離れていた私にとって、実際に行われている看護実践や治療を知ることができ、大変有意義な体験でした。また学科卒看護師が臨床において少しずつ成長している姿を垣間見ることができ頼もしく思うと共に、看護基礎教育のやりがいについても改めて感じられる機会になりました。



教育人事交流では、臨床指導者や教員の指導体制や、実習企画や運営等の全体像の理解や現在の学生の傾向や時代背景に応じた学習スタイルの変化について学ぶことが出来ました。現在、自部署で教育担当として新人看護師と関わる機会が多く、本交流で得た知識や経験を生かし、新人看護師への時代背景に寄り添った指導方法の工夫について日々スタッフと検討し、実践に繋げることが出来ています。

看護職キャリア支援センター 人事交流部門長から一言

わからないことは、見えません。

看護職:「コロナ渦の演習や講義って、どのようにしているのかな?」

「実習前の学生は、何が不安なのかな?」

教員:「私の看護って、今やシーラカンス化しているかも」

「実習以外のことで知りたいことがあるのだけど…」

わからないことは、おとなり行って、解決してきませんか?



看護学科教員と看護部看護職の 教育人事交流ご案内



看護学科と看護部の教育人事交流は、看護学科教員が大学病院へ、看護部看護職が看護学科へ一定期間赴き、看護学科教員の看護実践能力向上と看護部看護職のアセスメント能力・教育力向上を図り、看護の質向上に資することを目的としています。

看護学科教員

目的

最新の臨床看護に触れ、看護実践力、研究や看護教育の質の向上につなげる

目標

- 1)病院での実践研修を学生の講義、演習、臨地実習に活用する
- 2)自己の研究課題を実践する機会とする

対象

看護学科の全教員

期間及び時間

- ・発令の日から当該年度の年度末までを限度とし、交流対象者の希望する期間(時間・日・週・月単位を可とする)
- ・基本、平日の昼間の7時間45分以内

勤務形態

看護部勤務の兼務発令を受けて、教育人事交流する(給与形態に変更は無し)

主な業務内容

看護業務全般(採血、注射・点滴、看護記録は実施しない)、教育活動(研究指導、学習会・セミナー企画開催)

応募の時期

次年度の教育人事交流希望者は、看護学科の所属領域長に申請の許可を得て教育人事交流申請書(様式1)を記入し、11月末までに看護職キャリア支援センターに提出する

応募方法

※1をご参照ください

看護部看護職

目的

看護専門分野の知識を学び直し看護実践力、アセスメント能力、教育力の向上につなげる

目標

- 1)看護学科での教育の実際を体験しスタッフ指導、臨地実習指導に活用する
- 2)キャリアを考える機会とする

対象

旭川医科大学病院 看護部キャリアラダーレベルⅢ(ジェネラリスト)以上または、マネジメントラダーレベルⅠ

期間及び時間

- ・発令の日から当該年度の年度末までを限度とし、交流対象者の希望する期間(時間・日・週・月単位を可とする)
- ・基本、平日の昼間の7時間45分以内

勤務形態

学内特別講師としての発令を受けて、教育人事交流する(給与形態に変更は無し)

主な業務内容

教員業務全般(科目責任者として担当しない)

応募の時期

次年度の教育人事交流希望者は、教育人事交流申請書(様式1)を記入し、所属の看護師長に10月末までに提出する

応募方法

※1をご参照ください

※1 手続き等の詳細は、ホームページに掲載している「看護学科教員と看護部看護職の教育人事交流(兼務編)申し合わせ」、「看護学科教員と看護部看護職の教育人事交流(兼務編)運用手順」、「教育人事交流申請書(様式1)」をご覧ください。

看護職キャリア支援センター 人事交流 <https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/exchange>

※2 教育人事交流申請書(様式1)に記載する交流内容、希望時期、希望期間はあくまでも希望であり、実際の交流日程や内容は交流先との検討の上、正式に決定となります。

看護部の人事交流受入れ(令和4年度)

看護部の受け入れ可能な内容

カテゴリー	内容
看護実践 (採血・注射・点滴、看護記録は実施しない)	各部署(病棟・外来・中央部門等)での実践
	入退院支援(退院支援カンファレンス、他職種、他部門との調整、地域との連携について担当者とともに実施)
	その他 専門・認定看護師、特定行為研修修了者の活動見学
教育活動 (学習会・セミナー企画開催)	看護部継続教育活動への参加(研修の企画・運営・評価)
	部署学習会の企画、運営
	新人教育、学生指導
看護研究	看護研究の指導、相談、卒後3年目研修、看護研究研修の企画・運営

看護部の受け入れ可能な部署

部署	領域	部署	領域
10階西ナーステーション	精神科・神経科	5階東ナーステーション	女性医学科(婦人科・生殖医学科)、乳腺内分泌外科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、形成外科
10階東ナーステーション 救命救急センター	脳神経外科・放射線科・RI 救命救急病棟・外来	4階西ナーステーション 4階東ナーステーション	小児科、思春期科、小児外科 周産母子科、GCU
9階西ナーステーション	循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、心臓外科、糖尿病・内分泌科、リウマチ・膠原病内科	NICUナーステーション	新生児集中治療室
9階東ナーステーション・HCU	心臓外科、血管外科、呼吸器外科	ICUナーステーション	集中治療室(救急・手術後等)
8階西ナーステーション	整形外科	手術部ナーステーション	
8階東ナーステーション	眼科/ディザージャリー室、ペインクリニック、整形外科	外来ナーステーション	透析センター含む
7階西ナーステーション	腎泌尿器科、皮膚科	光学診療部・放射線部ナーステーション	
7階東ナーステーション	糖尿病・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科、消化器内科・神経内科、呼吸器内科	腫瘍センター・外来化学療法室・緩和ケアナーステーション	
6階西ナーステーション	消化器内科	地域医療連携室・入退院センターナーステーション	
6階東ナーステーション	消化器外科・移植外科	看護職キャリア支援教育担当	
5階西ナーステーション	血液・腫瘍内科、頭頸部外科センター(耳鼻咽喉科)	看護職キャリア支援職場適応支援	倫理・研究担当含む

専門領域で活動する看護師

区分	専門領域	
専門看護師	がん看護	
	急性・重症患者看護	
	老人看護	
認定看護師	皮膚・排泄ケア	
	手術看護	
	集中ケア	
	がん化学療法看護	
	緩和ケア	
	感染管理	
	糖尿病	
	摂食・嚥下障害看護	
	新生児集中ケア	
	脳卒中リハビリテーション看護	
	認知症看護	
	特定行為研修修了者	クリティカルケア領域
		呼吸器(気道確保に係るもの)関連、呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連、栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、循環動態に係る薬剤投与関連

看護学科の人事交流受入れ(令和4年度)

教育人事交流で受け入れ可能な領域・科目

	領域	科目	概要	
看護の 基盤	基礎看護学	看護学概論	看護および看護学について概観し、看護の基本的知識と看護実践者としての基盤を学習する。	
		基礎看護技術学Ⅰ	看護技術の概念を理解し、看護ケアに必要な基本技術を科学的根拠に基づき学ぶ。	
		基礎看護技術学Ⅱ	人間の日常生活に対する理解を深め、日常生活に関する援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。	
		基礎看護技術学Ⅲ	リスクマネジメントに対する理解を深めながら、診療に伴う援助技術を学ぶ。	
		基礎看護技術学Ⅳ	看護過程の展開の基礎的な知識・考え方を学び、論理的思考・判断力に基づいた看護実践のための基本を習得する。	
		看護フィジカルアセスメント	看護技術としてのフィジカルアセスメントの概念、目的、意義について理解する。	
		看護倫理	看護者として適切な倫理的意思決定と行動をするために必要な基本的知識を学習する。	
		看護理論	看護実践の科学的基盤となる看護理論とは何かを学び、看護実践に看護理論がどのように活用されるかを理解する。	
		基礎看護学実習Ⅰ	患者の生活、患者が受けている看護を理解する。また、看護実践に必要な基本的態度を身に付ける。	
		基礎看護学実習Ⅱ	入院患者を統合体として理解し、療養生活上の看護援助を行い看護実践に必要な基礎的看護技術を習得する。対人関係を築くために必要なコミュニケーション能力を高める。	
精神看護学	コミュニケーション論	人間関係を個人から集団レベルまで広く捉えながら、コミュニケーション理論の理解とそれに基づいたスキルを学ぶ。		
コ ミュ ニ テ ィ と 看 護	小児・母性・高齢者・精神看護学 公衆衛生 看護学	人間生涯発達論	発達に関する理論について学ぶ。	
		地域看護学	人々が地域、病院、施設いづれにあっても必要な時に必要な看護が継続的に総合的に提供される看護の仕組みの重要性等を理解する。(地域活動の参加を含む)	
		在宅・基礎・成人・高齢者・公衆衛生・小児・母性看護学	地域包括ケア論Ⅰ	様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なことを学ぶ。(地域活動の参加を含む)
		地域包括ケア論Ⅱ	地域住民の健康増進のための課題、健康問題を明確にし、より良い地域包括ケアについて考える。(地域活動の参加を含む)	
		地域包括ケア論Ⅲ	これまでに学習した地域住民と健康、健康課題を踏まえて具体的に地域包括ケアの実践準備を行い、実習で実践につなげる。また実践した活動の評価を行い、より良い地域包括ケアについて検討を行う。	
		地域包括ケア実習	地域包括ケア論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して立案した地域住民の健康課題・問題解決のための対策・改善案などを、担当地区住民と協働して実行する。能動的に活動し、地域包括ケアを統合的に理解し、実践能力を習得する。	
		地域包括ケア論Ⅳ	2022年度開講	
		成人看護学	成人看護学Ⅰ	成人期の特徴や健康問題を理解し、成人看護学の重要性と健康増進や疾病予防など成人保健活動における看護職の役割を学ぶ。
		成人看護学Ⅱ	成人看護学Ⅱ	周術期看護の概念を理解し、周術期における看護師の役割と手術を受ける患者および家族の特徴、必要な看護援助について学ぶ。
		実践看護技術学Ⅰ(成人)	実践看護技術学Ⅰ(成人)	健康障害を生じている成人期の患者に必要な看護援助を習得する。
成人看護学実習Ⅰ(急性期)	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	周術期にある対象者の特徴を理解し、援助関係を成立させ、対象者のニーズに応じた援助ができる。また、対象者のセルフケア能力が最大限に発揮され、QOLが向上するような看護援助を実践する。		
成人看護学実習Ⅱ(外来)	成人看護学実習Ⅱ(外来)	健康障害をもち外来を受診する成人期にある対象者を理解し、対象者に必要な看護支援ができる能力を養う。医療チームにおける看護の役割を理解し、継続看護の実践に必要な能力を養う。		
成人看護学実習Ⅲ(慢性期)	成人看護学実習Ⅲ(慢性期)	慢性期や終末期の対象者の特徴を理解し、対象者のセルフマネジメントが最大に発揮され、苦痛緩和やQOLが向上する看護援助を実践する。かかわる専門職やチーム医療、継続的な医療・看護の役割機能を理解する。		
高 齢 者 看 護 学	高齢者看護学	高齢者看護学Ⅰ	高齢者の身体生理的、心理発達の、社会的特徴の理解と共に、老年期に多い疾患の特徴と看護を学ぶ。	
		高齢者看護学Ⅱ	高齢者の個性に応じた老年看護の展開ができるよう、基本となる知識の習得と完成を涵養する。	
		高齢者看護学実習	健康障害や生活障害がある高齢者やその家族を理解し、個性に応じた看護を実践できる能力を養う。地域社会資源の活用方法を理解し、看護の役割を学ぶ。	
小 児 看 護 学	小児看護学	小児看護学	小児と家族に関わる社会環境や法律・施策などを概観し長・発達段階別・症状別など小児の特徴と看護について学ぶ。	
		小児看護学実習	健康な小児と家族を理解し、対象に応じた看護の基礎を養う。また健康な子どもの成長・発達を理解し、看護技術・倫理的態度の基礎を習得する。とりまく家族・大人の役割についても考察する。	
母 性 看 護 学	母性看護学	母性看護学	女性のライフステージにおける健康課題と看護、周産期の女性と新生児の特徴と看護などを理解する。	
		母性看護学実習	妊産婦・新生児とその家族の特徴を理解し、個性性を考慮した看護過程を展開し基本的な母性看護のケア実践ができる能力を養う。実習を通し看護学生としての責務、倫理的行動、生命や人権の尊重を学ぶ。	
精 神 看 護 学	精神看護学	精神看護学Ⅰ	精神障害の有無にかかわらず、すべての人の心の健康を支えるための看護について必要な基礎的知識と視点を学ぶ。	
		精神看護学Ⅱ	精神症状が対象者に及ぼす影響を多角的に捉え、発達段階を考慮した回復と自立・自律を促進する看護援助について学ぶ。	
		精神看護学実習	精神の健康問題を抱えながら病院・地域で生活する人々を理解し、対象者との関係性を基盤に看護の方向性を探索し、チーム医療に参画し看護を実践する。リカバリーを実現する多様な場の機能や特性を理解し、精神保健と看護の多様性を考える。	
		精神・母性・小児看護学	精神・母性・小児看護学	精神の健康問題を抱えながら病院・地域で生活する人々を理解し、対象者との関係性を基盤に看護の方向性を探索し、チーム医療に参画し看護を実践する。リカバリーを実現する多様な場の機能や特性を理解し、精神保健と看護の多様性を考える。
看 護 の 発 展 と 探 求	在宅看護学	在宅看護学	母性・精神・小児看護学の看護専門技術や、看護師としての倫理的態度についても考察し、対象者の生活の質を保证するための看護実践能力を習得する。	
		在宅看護学実習	2022年度開講	
		在宅看護学	病気になるっても住み慣れた場所で生活する療養者を支える在宅看護や福祉システムを習得する。多様な健康課題を抱える在宅療養者および、その家族の生活と健康に対する支援の実践を理解する。	
		在宅看護学実習	訪問看護を取り巻く社会資源の機能と役割、保健医療福祉介護チームの一員として連携、訪問看護活動を学習する。	
が ん 看 護 学	がん看護学	がん看護学Ⅰ	高度で専門的ながん看護の基本的知識を学び、がんを持つ人とその家族ががんと共生することを支援する技術、倫理的課題について取り組みQOLを高めるための実践を導く基本的がん看護を学ぶ。	
		がん看護学Ⅱ	チーム医療・リハビリテーション看護論	
		国際保健・災害看護論	2022年度開講	
		看護管理・医療安全論	2022年度開講	